

Go for it !! ②

令和3年度(2021年度)
5年経験者研修 授業づくり研修
(中堅教諭等資質向上研修)

<https://toyono-jinikyo.com/>

第2回は、道徳の授業づくり・授業評価について、畿央大学の島恒生先生に動画にてご講義いただきました。実際の教材をもとに発問や授業展開を考えながら道徳の授業づくりで大切にしたいこととお話していただきました。「学習者は子ども」という考え方は、道徳科の評価のみならず他教科の授業づくりにも言えることで、これまでの道徳の時間・道徳の授業を振り返るだけでなく、他の授業改善にもつなげられる学びの機会となりました。

～ 振り返りシートより～

道徳の授業レベルは「状況理解レベル」「心情理解レベル」「道徳的価値レベル」の3段階あるというお話が非常にわかりやすく、普段の授業をイメージしながら聞くことができました。授業が「心情理解レベル」で終わってしまうと、分かりきっていることを確認するだけの授業になってしまい、子どもたちは「おもしろくない」と感じるのだということも自分自身の子どもの頃の経験として分かるので、そうならないようにしようと強く思いました。また、学年によってねらいが違うため問い方を変えないといけないというお話や、道徳的価値がはっきりと視覚化されている板書のお話なども具体的な授業がイメージできるもので、自分が授業をつくるうえで非常に参考になると感じました。そして授業中だけでなく、普段の指導が非常に重要な意味を持つことも改めて学びました。日頃の声掛けや指導についても意識的に行う必要があると感じました。

「中心発問の追求→何となく話し合い→ふりかえり」の流れでは、数人の子たちは気がつくがほとんどの子どもが自分たちの学びになっていませんでした。「中心発問の追求→子どもと整理→子どもの手柄→ふりかえり」の流れにすることにより、子どもに納得と発見が生まれる授業ができることが分かりました。出た意見を子どもと整理すること、そして整理し見つけたことを評価することを必ず授業でしていこうと思いました。道徳科の授業だけでなく日常から道徳教育を意図的に行っていくことで、子どもたちの道徳性は養われていくことが分かりました。日々頑張りたいです。

自分の道徳の授業が、分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業や小さな国語の授業になってしまふことが多いなと思いました。状況理解レベルを意識して、状況把握をしやすいように範読を意識し、宿題などであらかじめ読ませておく工夫などをしていきたいと思いました。また、視覚的にも理解しやすいように挿絵も積極的に使っていきたいと思いました。学年によって押さえどころが違うことも意識して取り組んでいきたいです。そのためにも、ねらいをより詳しく書き直したり、どんなことを子どもから引き出したいのか、気づかせたいのかを考えながら授業づくりをしていきたいです。

今までの自分の道徳の授業では、クラスの子たちの足りない部分を探して考える「マイナス志向の道徳」の授業や、登場人物の心情理解のみを問う授業になってしまうことも多かったので、2学期から子どもたちの心の中にあるものに気づかせる「プラス志向の道徳」を心がけていきたいと思いました。普段の教育活動全体で子どもの心を育て、道徳の授業でその心に気づかせていきたいと思ひます。

現任校では、道徳はローテーションで授業をしており、指導案を作成する際に悩みながら作っていましたが、今回の講義を聞いて、自分が何に悩んでいたのかが整理できました。どのような中心発問を用意すればよいのかで毎回かなり悩んでいましたが、中心発問は、道徳的価値に対する考え方や生き方を生徒に考えさせようとするとある程度決まってくるということに気づきました。状況の整理や感情の読み取りではなく、道徳的価値レベルで生徒がしっかりと考えられるような問いをしたいと思ひます。中学校の教材は複雑なものも多く、生徒によっては状況理解や心情理解が難しいこともあるので、生徒の理解を上手に助けられる工夫ができればスムーズに授業が進むのかなと思ひました。

他の授業でもそうですが、教師が説明するのではなく大切なことは子どもたちに考えさせ、気づかせることができるようにしていきたいと思いました。そのために、やはりめあてを子どもの言葉からたてたり、疑問が生まれたときにめあてをたてたりするなど、子どもの中で考えたいという思いが出るような授業にしていきたいです。そして、授業の最後には、子どもたちが自分たちで考えたんだと思えるように子どもの言葉を使ってまとめをしていくこと、自分たちで考えられたことを価値づけしていくことも大事にしていきたいです。

子どもの頭の中に「？」がうまれる問いの重要性を感じました。そしてこれは道徳科の授業だけではないと感じます。子ども主体で「？」のうまれる問いをどれだけ考えられるかによって授業の深みも変わってくるのだと日々感じています。うまくいかないときもありますが、子どもたちと一緒にこれからも頑張って、楽しんで学んでいきたいと思っています。道徳科の授業でもそうですが、子どもたちとの日々の関わり、普段からの指導がとても大事なことを改めて感じる事ができたので、2学期からもしっかりと向き合っていきたいと思います。

今回の研修を通して自分の道徳の授業を見つめ直すことができ、どのような視点で教材研究を行っていけばいいかのヒントを多く得ることができました。今回学んだことを、同じ学年の先生や後輩などに伝えていけたらなと考えています。この5年目研を通して、少しでもミドルリーダーとしての力を身につけられるよう残りの研修にも真剣に取り組みたいです。

この研修通信を読むころには、第2回の研修受講から2か月以上経っていることでしょう。自身の振り返りシートと合わせて、研修内容と研修から学んだこと・考えたことを思い返してみてください。受講後の成果や、改めて意識したいことなど、反すうすることで少しずつ確実に自分の力にしていましょ。そして、今回の振り返りシートに多く見られたのが、「研修で学んだことを自分の授業だけでなく、(学年や後輩の授業などの)校内にも伝えたり活かしたりしていきたい」ということです。5年経験者研修は「教員の資質の向上に関する指標(豊能地区)」(*研修の手引P. 7~9参照)で示す第2期・ミドルリーダー向上期を毎回の研修のねらいとしています。自分の授業力向上だけでなく、それを校内で指導・助言することや発信することも意識して受講することが、ミドルリーダーとして向上していくための第一歩です。校外での研修と校内の実践やそれぞれの今の役割を結びつけながら研修を受講し、さらに校内の中心となっていけるように今後も「学び続ける姿勢」を忘れないでいてください。

「授業研究シート」(第4回課題)について

3市2町合同で実施する5年経験者研修は、次回(第4回)が最終回です。事前課題として「授業研究シート」(*研修の手引P. 5参照)を作成し、各市町教育委員会または教育センターが定める期日までに提出をしてください。また、研修当日は受講者同士で協議・交流をしますので、**各自で6部印刷して持参してください。**このシートは、「ミドルリーダーへの自覚・意識向上」といった5年経験者研修の目的や内容(*研修の手引P. 3参照)に即した課題です。経験の少ない教員の授業を参観し、指導・助言するというのは、自分の今の授業観や指導観をアウトプットする機会になります。指導・助言を通しての気づきや学び、感じたことを今後のミドルリーダーとしての役割や、教員としての資質向上につなげていましょ。

5年経験者研修の中で、自身の授業や学級づくり、子どもとの関わりについての成果を振り返ることと、現状や課題をつかみ、今後活かそうとする姿が振り返りシートから多く見られています。これまで先輩から指導・助言を受けてきた分、これからはみなさんが指導・助言をして支えていく役割を担っていきます。授業参観とシートの作成は計画的に実施して、最終回に備えてください。同じ経験年数の受講者同士で協議・交流することがよい刺激となり、ミドルリーダーとしての自覚をもつことや、今後の励みになることを期待しています。

